

【子どもアシストセンター紹介編】

◎ 救済委員・調査員・相談員のコラム

「花を咲かせるために・・・」

（品川 代表子どもの権利救済委員）

「相談は『勇気』の一つ」

（高橋 子どもの権利調査員）

「君はいい子なんだよ」

（葛西 子どもの権利相談員）

第4章 普及・啓発活動



「こんにちは、アシストです」

「花を咲かせるために・・・」

品川代表子どもの権利救済委員
(在籍期間：R3.4～)

5月、長い冬が終わり、花々が一斉に咲くこの時期は、1年のなかでも美しい季節ですね。

寒い冬には土の下だったチューリップや水仙、ムスカリが可愛い花をつけはじめます。この時期は庭の花々だけでなく、街路樹の桜や桃、コブシも同時期に開花して、春の息吹を感じます。

わたしはこの時期に、玄関前にお花の寄せ植えをつくります。それぞれのお花の特性や色を考えて3種類の花を選んで一つの鉢に植えます。

できた時にはその可愛さに満足するのですが、水やりなどのお世話を怠ると、すぐに元気がなくなったり、成長の差があって窮屈になってしまったり、夏ころにはやせ細り、無残な姿になってしまったこともありました。

やはり植物は継続した世話が大切です。水や栄養を与えないと、きれいな花が咲きません。花が咲き終わった時には、花がらを摘むことで、また新しいつぼみをつけることができますし、余分な枝も切らなければきれいな花が咲きません。

う～ん、なんだか子育てにも似ていますね。植えただけでも育ってはいきませんが、本当はきれいな花をつける遺伝子をもっている、栄養を与えすぎたり、水をやりすぎたりすることで、植物が弱ってしまうこともあるのです。子どもたちも、その子によって親や周りの大人のかかわり方は共通することあれば、その子によって違うかかわり方が必要なこともあります。

子どもが一人ひとりきれいな自分の花を咲かせるためには、その花にあった適切な世話が必要なのだろうと思います。そしてお花を育てる初心者の方たちには、きれいな花を咲かせるためには、こんなコツが大切ですというアドバイスも有効かもしれません。親が世話をできない時には、誰かが代わって水やりをすることも必要です。

すべての子どもたちが、その花を咲かせるためには、親だけでなく周りのすべての大人たちが、子どもが成長する力を信じながら、花が咲くのを心待ちにしたいものです。

この札幌の 5 月のように一斉ではなくとも、一つひとつの花が開き続けるさまは、社会にとって植物の花と同じように人々に癒しと元気を与えてくれるものと思います。

「相談は『勇気』の一つ」

高橋子どもの権利調査員
(在籍期間:R7.4~)

みなさん、毎日の生活の中では、様々な活動や人とのかわりがありますね。友だちのこと、勉強のこと、部活のこと、先生のこと。家に帰ると、家族のこと、食事のこと、携帯電話のこと、塾や習い事のこと。楽しい時には元気に過ごすことができますが、前に進みたくても様々な悩みや困りが目の前に立ちふさがり、涙が出るほど悲しい気持ちになったことはありませんか。時には「この状況から逃げ出したい」とまで、心の中で何度も何度も同じことを繰り返し考えて苦しくなる時もあると思います。そんな時には、すぐにでも自分の周りにいる親しい友だちや学校の先生、自分のことをわかっている大好きな家族に相談したり、伝えたりすることが一番の解決方法です。ちょっとしたことでも真剣に聞いてもらえることやそばにいて一緒に考えてくれることは本当の安心感に繋がります。でも、自分自身のことで「心配をかけること」、「恥ずかしいこと」など、知られたくない困りごとや出来事の時はどうしますか。近くて親しい仲のよいお友だちや家族には、かえって話すことが難しくなる場合もあると思います。

「知らない人なら話せるのに…」「聞いてもらえるだけでいいのに…」。そんな気持ちは、「何とかしたい」「助けてほしい」という素直な自分の気持ちのあらわれなのです。困ったことを相談するということ。それは、とても勇気のいる自分自身の発信でもあります。アシストセンターで相談を受け付けるたびに、気持ちの一番深いところにある、みなさんの「勇気」が伝わってきます。相談員さんと会話を続けていると、自分のことであっても、他人に置き換えて考えられるようになってくれる人。自分が悩んでいることよりも、生きていることがつらい出来事や大変な苦勞について理解できるようになってくれる人。いつの間にか解決に必要な様々なアイデアが、一番困っていたはずのあなたからどんどん出てきます。そして、何よりうれしいのは「明日から…をやってみようと思います。」とこれからの自分の行動に挑戦しようとする「新しい勇気」を伝えてくれる瞬間です。

みなさん、子どもアシストセンターに色々なお話を聞かせてくれませんか。そして、どんなに困ったことがあっても、一緒に考えてみませんか。アシストセンターでは、小中学生をはじめ 18 歳までの青少年のみなさんから様々な相談を受け付けています。特に、最近ではインターネットやスマートフォンの利用によって、みなさんの声や悩みを LINE アプリなどを通じて、お話しする機会が増えてきています。直接、電話でお話しするよりも、自分なりの表現で、短い文章で気軽に会話できるのが好まれているようです。

アシストセンターの相談員さんは、みなさんが伝えたいとする気持ちや考えを一生懸命に聞きながら、お話しの相談相手になってくれます。これからも、大いに活用してほしいです。

「君はいい子なんだよ」

葛西子どもの権利相談員
(在籍期間：R6.4～)

自宅の本棚にあった『窓ぎわのトットちゃん』を久しぶりに取り出してみました。その続編が数十年ぶりに出版されたことを知ったからでした。

「トットちゃん」とは作者自身の子どもの頃の愛称で、今もテレビの対談番組の司会などを長くされていて、玉ねぎ頭のヘアースタイルが特徴的な方といえご存じの人も多いことでしょう。黒柳徹子（くろやなぎ・てつこ）さんのことです。

「トットちゃん」のお母さんは、トットちゃんの小学校の担任の先生から、「お宅のお嬢さんがいると、クラスの中の迷惑になります。よその学校にお連れください!」と言われてしまいました。トットちゃんは、珍しいものや興味のあることに会おうと、周囲のことも気にせずそのことにまっしぐらに向かっていってしまうところがありました。先生たちが驚くような事件を起こすことも時にはあったのです。お母さんは、トットちゃんの特性をわかってもらえて、みんなと一緒にやっていける学校はないかと探し始めました。

そこで一人の校長先生と出会います。初めての登校日、トットちゃんを待っていた校長先生はトットちゃんの近くに腰を掛けるとこう言いました。「さあ、何でも、話したいことを先生に話してごらん。」校長先生は、笑ったりうなずいたり、「それから?」と相づちを打ちながら、トットちゃんの話最後まで一生懸命聞いてくれました。こんなにもちゃんと聞いてくれた大人はいませんでした。

トットちゃんは、これまで何となく自分が一人だけ他の子どもとちょっと違って、周囲から冷たい目で見られているような疎外感をおぼろげに感じていました。でも、校長先生は子どもたちの生まれつき持っている素質を損なわないで、周りの大人がどのように支え、育てて大きくしてやれるかということをいつも考えていました。前の学校で持て余し者とされていたトットちゃんを、温かく迎え入れてくれたのでした。

「君は本当はいい子なんだよ」と校長先生は言い続けてくれました。この言葉がどんなにか彼女の支えとなっていったか計り知れません。黒柳さんはこう振り返っています。この学校と校長先生に出会っていなければ、おそらく何をしてもし悪い子というレッテルを貼られ、コンプレックスにとらわれ、どうしていいかわからないまま大人になっていたと思うと。

ひとりで思い悩んだり辛いとき、誰かに話を聞いてもらうことで気持ちが整理されたり、軽くなっていくことがあります。アシストセンターは、皆さんのお話にしっかりと耳を傾け、応援団として一緒に考えていけたらと思います。

第4章 普及・啓発活動

子どもの権利侵害からの救済にかかる実効性を確保するためには、子どもや保護者、そして子どもが育ち学ぶ施設の職員など、多くの方々に子どもアシストセンターの存在を広く知ってもらうことが重要です。子どもアシストセンターにSOSを伝えられる子どもが増えるよう、実際の相談・救済活動とともに、さまざまな方法により、子どもアシストセンターの普及・啓発活動に取り組んでいます。

1 広報・出前講座

(1) 子どもアシストセンターの広報物

子ども用カード（名刺サイズ）

【対象】小学生・中学生・高校生・特別支援学校【配布時期】5月～6月、10月～11月

↓小学生・特別支援学校



↓中学生・高校生



大人用カード（名刺サイズ）

【対象】主に大人【配布時期】12～1月
※コンビニ、ドラッグストアの市内店舗



施設用ステッカー 市内の小・中・高校、特別支援学校、児童会館、保育園等

↓小学生用



↓中学生・高校生用



↓大人用



子ども用ポスター

【対象】市内の小・中・高校、特別支援学校等
【掲示】9月



大人用ポスター

【対象】地下鉄駅掲示板
【掲示】11月、2月



保護者向け広報紙

【対象】小中学生の保護者、高校、公共施設等
【配布時期】8月、1月



保護者向けチラシ

【対象】主に大人
【配布時期】随時
※出前講座で配布



(2) LINE広告の配信

主に中高生をターゲットに、アシストセンターを周知する目的の他、今は悩みがなくてもお守り代わりとしてアシストセンターをLINE友だち登録しておくことで、いざというときいつでも相談できる子どもが増えるよう、LINE広告を実施しました。
(配信時期：令和7年8月、令和8年1月)



(3) 出前講座等

あしすと出前講座(7回実施、828人参加)

子どもの権利に関する理解を深めることを目的に、家庭教育学級、青少年関係団体など子どもに関わるさまざまな団体やグループなどを対象に、救済委員や調査員、相談員が講師となり、子どもの悩みや課題について共に考え話し合います。学校から依頼があれば、児童・生徒を対象に「出前授業」も実施しています。

テーマ例

- ・子どもの権利を守るってどんなこと？
- ・相談から見える子どもたち
- ・困ったときのSOSの出し方

あしすと子ども出前講座(19回実施、860人参加)



子どもアシストセンターが、親しみやすく安心して相談できる機関であることを子どもたちに直接PRするため、市内の児童会館を利用する子どもを対象に、ペープサート(紙の人形劇)による動画を活用した出前講座を行っています。

(4) その他



- ◇ ホームページ
 - ・子どものみなさんへ
 - ・コラム「こんにちは、アシストです」(毎月更新)
- ◇ 札幌市子ども未来局 X (※旧 Twitter) (随時)

2 視察対応

(1) 地方自治体等からの視察

子どもの権利救済機関の設置を検討している自治体等から視察の申し込みがあり、令和7年度は、1件5名の方が視察に訪れました。

主な説明項目は、子どもアシストセンターの設置の経緯や人員体制、運営状況、学校その他の関係機関との連携などです。

来所日時	自治体名	来訪者	人数
令和7年11月19日(水)	北海道音更町	町議会議員	5名

(2) その他団体等からの視察

子どもアシストセンターの活動に関心を持つ高校生や大学生から、話を聴きたいと申し出があり、子どもアシストセンターの相談状況や運営状況について説明しました。

来所日時	団体名	来訪者	人数
令和7年12月16日(火)	北海道科学大学高等学校	高校生	7名
12月25日(木)	札幌国際大学	大学生	2名

